
この言葉以外見つからない

春桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この言葉以外見つからない

【NZコード】

N3454M

【作者名】

春桜

【あらすじ】

ウルキオラは消えてしまった。その時織姫の心は・・・。

(前書き)

字間違いは勘弁。ウルキオラが消えた後の話です。

行かないで。独りにしないで。どんなに叫んでも叶わないことは知つていい。

それでも私は手を伸ばした。

「井上 . . . 」

「いつちやつた . . . びびじてかな?涙が止まらないよ . . . 」

「彼はいつてしまつた。一度ともう戻らない。そんなことを頭に浮かべると涙が止まらなかつた。

彼は最後に小さく笑つた。消える。消えてしまつ。

失つてはじめてわかつた。

いつの間にか、彼は私の支えになつていたんだ。

「そうだよね . . . ？」

「黒崎 . . . 君がウルキオラを倒したのは違いないかも知れない。けど井上さんを守つたのは彼だ。」

石田君の言葉が胸につきささつた。

「違う . . . 黒崎君は何も悪くない。ウルキオラさんは敵だつた。だから . . . 私を助けようとしてくれただけ。悪くないよ . . . 」

ありがとう。一人とも。」

「井上さん . . . 」

大丈夫だよ。私は大切なものを彼に貰つたんだから。

だから . . . 寂しくないよ。悲しくないよ。

「女、何をしている?」

「えっ！？あのウルキオラさん . . . 」

「泣いていたのか。」

ウルキオラさんはため息をつき、私の横に座る。
私は無言でうつむいた。

「貴様は、何のためにここにきた？」

「そ、それは . . . 」

「仲間を守るためにだろう？無力なお前ができることは犠牲になることだ。」

「そんな . . . 」

「ひどいことを言つているか？貴様は何もできはしない。だが俺たちは貴様を必要としている。斬り捨てた仲間を思うより今を見たほうが懸命だと俺は思うがな。」

そうかもしけなくとも、仲間を忘れる事はできない . . . 。

「私は . . . 」

「貴様は何のために生きている？俺達に必要とされることが生きる意味だろ？それで十分ではないのか？人間とは欲の塊だな。」
彼は同じようなセリフをほぐ。どうしてだろう？ . . . ものすごく

彼の鼓動が聞こえる。 . . .

「どうした？」

「えつ！？あの 。」

「？」

「あなたは私を必要としてくれますか？」

彼は少しためらつて口を開いた。

「藍染様が必要とするならば俺は必要としているのだうな。誰かに必要とされることはきっと意味があるのだろうな . . . 」
彼は悲しいような顔をしてくる。まるで自分が必要じやないみたいに . . . 。

「私は . . . 私は！ウルキオラさんのこと大事に思つてますよ！
藍染様より必要としてます！だから . . .
そんな顔しないで下さい。」

彼の顔を見ると胸が痛むから、悲しい顔はしないで。

「必要にするか 。」

彼は立ち上がり去りうつとする。

「待つて！！」

「 。

私は無意識に彼のすそを掴んでいた。

「離せ。」

「あつ、ごめんなさい。」

「何故だらうな 。

「えつ！？」

「この何も無い肉体が熱い . . . 貴様、俺になにかしたのか？」

「な、なにもしてません . . . よ。」

「また来る。俺はそう簡単に消えはしない。」

また泣きそつな私を彼は彼らしい言葉で安心させてくれる。私は自然と笑顔になる。

「何故笑う?」

「嬉しいからです。ありがとう。ウルキオラさん!」

「…………可笑しな奴だ。」

今度こそ背を向けていつてしまった。

どうしてだろう? 彼と一緒にいると全てが忘れられる。

笑顔になれる。

だから最後にも伝えたかったのに。

どうして私はいつもうまくできないの?

だから最後にも伝えたかったのに。

「許して。ウルキオラさん。」

私はウエーブマンドの空を見上げた。

「最後までこの気持ちが言えなかつた。…………好きです。」

「そして…………。」

「ありがとう…………。」

彼この言葉が届いているだらつか？

届いてこらね、返事をしてくだれ。

どうか、どうか、笑つていてください。

私はあなたから笑顔をもらつたのだから。

(後書き)

グダグダ・・・いつもながら流れで書いてると混乱してきます。 読んでいただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3454m/>

この言葉以外見つからない

2010年10月9日14時36分発行